

【担当教員】

伊藤 敦美・田村 和弘

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報棟1号棟509号室

【授業目的および達成目標】

【授業目的】

本講義は生徒指導及び進路指導の基本的な理論および、生徒指導及び進路指導をめぐる諸問題について理解を深めることを目的とする。教員として生徒指導及び進路指導を行うことのできる実践的指導力の基礎を育成することめざす。また本講義の理解を通じて、本学の「教育目的 3」「意思疎通能力を有した技術者を育成すること」も図る。

【達成目標】

- (1) 生徒指導の意義、教育課程における生徒指導の位置づけと重要性、集団指導・個別指導の方法原理、生徒指導体制の基本的な考え方を理解する。
- (2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
- (3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態及び定義、外部の専門家や関係機関等との校内外の連携を含めた対応の在り方を理解する。
- (4) 進路指導・キャリア教育の意義、教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけと指導の在り方、指導体制及び家庭や関係機関等との連携の在り方を理解する。

【授業キーワード】

生徒指導の意義、集団指導・個別指導、いじめ、中途退学、キャリア教育

【授業内容および授業方法】

【授業内容】

生徒指導は、学習指導とならぶ重要な教育活動であり、教育活動全体を通じて行われる。この授業では、生徒指導の意義や教育課程における生徒指導の位置づけ、方法原理やその指導体制と進め方、児童生徒の抱える生徒指導上の諸課題の様態及び他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識や技能等について取り上げる。

【授業方法】

講義に加えて、発表およびディスカッションをおこなう。

【授業項目】

- 第1回：教育課程における生徒指導の位置づけ及び各教科・道德教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義と重要性
- 第2回：集団指導・個別指導の方法原理及び生徒指導体制と教育相談体制の基本的な考え方と違い
- 第3回：学級担任、教科担任その他の校務分掌上の役割と学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な生徒指導の取組の在り方
- 第4回：生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（1）：いじめ
- 第5回：生徒指導上の課題の定義及び対応の視点（2）：不登校・暴力行為
- 第6回：生徒指導に関する法制度：校則・懲戒（停学及び退学を含む）・体罰等
- 第7回：今日的な生徒指導上の課題及び関係機関との連携：インターネット、児童虐待
- 第8回：児童生徒全体への生徒指導の実践（1）基礎的な生活習慣の確立・規範意識の醸成
- 第9回：児童生徒全体への生徒指導の実践（2）自己存在感を育む場や機会の設定
- 第10回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ及び学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
- 第11回：職場体験活動を核としたカリキュラム・マネジメント
- 第12回：ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義及び留意点
- 第13回：進路指導・キャリア教育の指導体制及び家庭や関係機関との連携
- 第14回：キャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオを活用した実践
- 第15回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践
- 第16回 期末試験

【授業時間外学習（予習・復習等）】

学習効果を上げるため、教科書等の該当箇所を参照し、授業内容に関する予習を90分程度行い、授業内容に関する復習を90分程度行うことが望ましい。

【教科書】

岩崎保之編著『教育・保育の基礎を学ぶ』国際文献社、2018年。
文部科学省『生徒指導提要』2022年。

【参考書】

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
生徒指導提要改訂版（令和4年 文部科学省）
「いじめ問題」から授業・学校改革を考える（斎藤勉著 明治図書）
生きる力を育む生徒指導（宮下一博・河野莊子編著 北樹出版）
キャリア教育基礎論（藤田晃之 実業之日本社）
進路指導・キャリア教育の理論と実践（吉田辰夫・篠翰著 日本文化科学社）

【成績の評価方法と評価項目】

学習理解の確認（テスト）60%、講義中の課題・レポート30%、授業への取組（授業中の発言や態度）10%により評価する。
試験の実施時期については授業で周知する。講義内容全般についての理解度を確認する。試験の際の資料等の持ち込みは不可とする。授業への取組は、授業中の態度、授業中の発言、欠席状況等を総合的に評価する。

【留意事項】

第1回目の授業から教科書を使用しますので準備をお願いします。

【参照ホームページ名】

平成29・30・31年改訂学習指導要領（本文、解説）

【参照ホームページアドレス】

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

【備考】

特になし。

【ディプロマポリシーとの対応】

- 【】 1. 理数の技法と技術科学の見方
理数とデータサイエンスの概念・技法の習得、及び社会を支える様々な技術の科学的理解。
- 【】 2. 思考力・表現力と社会的視野
理解・思考・表現・対話の基礎である言語・論理力の習得、及び技術と社会、安全、環境との関わりの理解。
- 【】 3. 専門の基礎力
技術科学各分野の専門の基礎知識と技能、及び情報技術を使いこなす能力の習得。
- 【】 4. コミュニケーションと協働の力
英語による技術コミュニケーション基礎力、及び国際感覚を持ちチームで協働できる能力の習得。